

日本産業衛生学会東海地方会

## 地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局  
〒541-0056  
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 7F  
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン  
ミーティング&コンベンション事業部内  
FAX: 06-4964-8804  
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

## 巻 頭 言

## 繋がり

株式会社アイシン 安全健康推進部 健康推進室 産業医 村 崎 元 五



新年あけましておめでとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染症が収束し、かつての日常が戻ってくることを切に願っております。

このところ、コロナ禍でステイホームや外出制限など自粛生活が長期に及び、精神的に不安定になる人も多くなっている中、「繋がり」の大切さが再認識されています。

職場においても在宅勤務が増え、打ち合わせや研修などはオンラインで行うなど労働形態にかなりの変化が生じ、上司や同僚と「繋がり」が薄くなったと感じて、不安を持ちながら仕事をしている社員さんが多くなっていますが、近年、企業等において「ソーシャルキャピタル」の概念が重要視されるようになりました。人々の関係性や「繋がり」は、物的資本や人的資本と並ぶ組織の重要な資源という考えですが、人と人との「繋がり」を深めることで孤立・孤独を回避し、職場においては協調性・信頼関係が生まれ、労働者の働きがいを高め、メンタル不調を防止し、プレゼンティズムを減少させ、生産性向上につながると考えられているのです。

私は、産業医になって 35 年以上経ちますが、産業保健活動においても、「繋がり」が重要なキーワードになることを、いつも認識しております。適切な産業保健サービスを提供するためには、社員さんや職制の方々と

「繋がり」を持ち信頼関係を構築することが必要なのはもちろんですが、産業保健スタッフ間の「繋がり」も重要であり、情報を共有し、役割分担を明確にして、しっかり連携していくことが大切になります。

さらに社会構造の多様化が急激に進んでいる現在、本学会の役割の一つでもある会員同士の「繋がり」も、今後より一層重要になると考えられます。

それぞれの特性に即した適切な「ソーシャルキャピタル」の在り方を検討しながら、今後とも「繋がり」を大切にしていきたいと思っております。



## 開 催 報 告

## 2021 年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催報告

岐阜県立看護大学成熟期看護学領域 教授 梅津美香



2021 年 10 月 30 日 (土) に、2021 年度日本産業衛生学会東海地方会学会を開催いたしました。2020 年度に引き続き、Zoom によるオンライン開催です。オンライン開催ということで参加費は無料とし、非会員の

方にも事前申し込みをしていただくことで参加可能としました。最終的に 141 名の方にご参加いただくことができました。参加状況を見ますと、午前・午後を通して参加した方が 81 名ともっとも多くなっていましたが、午前のみ (23 名)、午後のみ (37 名) といった方もおられ、オンラインならではの参加しやすさが影響したように感じています。

午前は一般演題発表が 10 題ありました。1 題につき 25 分 (発表時間 15 分、質疑応答 10 分) とゆとりのある時間設定としたことで、発表内容が非常に理解しやすく、密度の濃い討議となっていたと思います。

午後は、特別企画と産業看護部会との共同企画を行いました。

特別企画は「産業保健と感染対策～エビデンスと現場実践の向上～」をテーマとしました。何をテーマとするか、地方会学会企画運営委員会の担当者間で議論を重ね、コロナ禍の今こそ、地方会学会として歴史的にも産業保健と関係が深い感染対策を取り上げようということになりました。さらに特別企画に向けて、会員の関心事項を把握する目的で新型コロナウイルス感染症対策に関する簡易なアンケートも実施しました。柴田英治先生 (四日市看護医療大学) によるご講演「産業保健における感染症研修・対策史」では、これまでの産業保健における感染対策の歴史を概観した上で、その時代に何を考え、何をを行ったのか記録することの重要性についての言及がありました。吉川徹先生 (労働安全衛生総合研究所) のご講演「職業感染対策の実務経験からみた産業保健の課題」では、職業感染対策について多岐にわたる取り組みの経験をベースに、COVID19 流行を機に再確認された職業感染対策について産業保健対策の視点から整理した現状と課題のご説明がありました。さらに、地方会会員を対象とした新型コロナウイルス感染症対策に関する簡易なアンケート結果報告 (表

参照) を行い、指定発言者として道井聡史先生 (本田技研工業株式会社) より現場での工夫・独自の取り組みについてご紹介いただきました。感染対策における学会の役割といったことも含めて、現場実践向上について有意義な討論ができたと考えております。

産業看護部会との共同企画では、「アフターコロナに向けたストレスチェック、集団アプローチ実践」をテーマに吉川悦子先生 (日本赤十字看護大学) にご講演いただきました。新型コロナウイルスのパンデミックにより、私たちの働き方は大きく変わりました。アフターコロナに向けたメンタルヘルス対策ということからストレスチェックを取り上げ集団アプローチの実践について考えていく機会となりました。

ご参加いただいた皆様、開催準備にご尽力いただいた常設企画運営委員および実行委員の皆様に心より感謝申し上げます。

表 新型コロナウイルス感染症対策アンケート結果概要

調査期間：2021 年 7 月 21 日～8 月 9 日  
 対 象：日本産業衛生学会東海地方会所属会員  
 方 法：Microsoft Forms を用いたオンライン調査  
 回 答 数：87  
 結 果：回答者の属性は、企業 54 人 (63%)、  
 大学 15 人 (17%)、医療機関 7 人 (8%) 等  
 ・【健康管理】に関して困っていること (複数回答) で多かった回答は、「感染対策の周知徹底」(28 人)、「在宅勤務等による健康影響」(27 人) であった。  
 ・【事業への影響】に関して困っていること (複数回答) で多かった回答は、「会議やミーティング、研修等での感染対策」(24 人)、「職場環境内の感染対策」(23 人) であった。  
 ・【ワクチン関係】で困っていること (複数回答) では「職域接種に関わること (申し込みができない、見通しが立たないなど) が最も多く 34 人であった。  
 ・【工夫・独自の取り組み】(自由記述) としては、従業員へのマスクの支給の継続、社内での PCR 検査体制の整備・実施、ガイドライン作成、職域接種時のリラックスクスできる雰囲気づくり、感染した場合の休業補償などの記載があった (一部抜粋)。  
 \*アンケートにご回答いただきました皆様、ありがとうございました。

## トピックス

## 新型コロナウイルスワクチン職域接種を経験して

ヤマハ発動機株式会社健康推進センター 統括産業医 内野 文 吾



2021 年 5 月某日、当時の河野大臣が新型コロナウイルスの職域接種を検討、という報道から間もないころ、「至急」と記されたメールが転送されてきました。経済産業省から、社内接種が可能なら一日何人接種できるか、翌日までに回答せよとのこと。ワクチン接種はできることから進めるのが効率的と考えていた私は、接種可能の回答を進言しました。通常業務の中にどう組み込むか、具体的な検討が必要とは思いましたが、悠長なことを言っていられない空気を感じ、走りながら考えることを覚悟したのでした。ちょうど同じころ、社長からのメールが役員経由で届きます。感染拡大を止めるにはワクチン接種が最優先であり、率先して進めよという内容でした。弊社では社長が健康施策に関して直接意見するのは極めて異例で、トップとしての強い意志を表すものでした。できる範囲でやるか、というくらいだった雰囲気が一変したことは言うまでもありません。その後は、五月雨の質問やオンライン会議が続き、6 月 1 日の官房長官発表と続くのでした。国が政策を進めるときにどんな検討が行われるのか実感しました。

一方で、社内の準備です。6 月 8 日の申請時点で会場と人数までは決めたものの、スタッフや物品の確保、日程などの詳細はほぼ未決でした。休日に磐田市の集団接種会場を見学し、レイアウト検討と必要物品をリストアップしながら、医療対応マニュアルの作成、臨時派遣社員確保、通常業務の調整など同時進行していきます。接種対象者は、社長の強い意向から在宅勤務などの対応ができない生産職社員を最優先、と決められました。そうして急ピッチで計画を詰めた 6 月中旬、接種計画を生産委員会に提示します。そこでの反応は、生産部門も全力で協力する覚悟を決めている中、いつまでやるつもりか、ペースが遅すぎると厳しいものでした。そのため、安全確保と高い生産性の両立がテーマとなり、生産革新技術部と呼ばれる生産性改善チームと協業することになりました。理論値生産と呼ばれる手法で、各接種工程が何秒のサイクルで進んでいるか、ボトルネックがどこか徹底して分析し、フローを調整して

いきます。例えば立ち座りは時間のロスが大きく、座るのは接種時のみ、医師問診も立ったまま進みます。社員証の非接触 IC を利用した進捗管理、要所には Web カメラを配置し医師問診しながら混雑度や観察室の様子を確認できるようにするなど、デジタル機器も積極的に導入されました。観察エリアの席数は、接種者が増えても最適席数を割り出して配置、どんどん埋まっても最後の列にかかる最初の人を終了、という様子を見て感動を覚えました。これらの改善の結果、同じリソースで 3 倍近い接種数を達成しました。会社の持つ力を合わせたコラボは、当社のスローガンである Revs Your Heart な体験となりました。

9 月 15 日までに、生産現場の派遣・請負の外国人社員も含め約 5,000 人への職域接種を終えました。副反応については、会場での緊急事例はなく血管迷走神経反射と皮膚・呼吸器症状を時々経験するくらいでしたが、接種後の発熱は高率に認め、特別休暇の取得は多くみられました。需要が急激に回復し生産停止が許されない中、集団発生を抑えることには一定の貢献ができたと自負しています。今回の経験を通じ、ワクチンの職域接種という新たなスキルを獲得できました。来るべき次の感染症に備えたいと思います。





## COVID-19 ワクチン職域接種の効果

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 保健師 西ヶ谷 江 里



2021年6月21日、静岡県内企業のトップを切って、弊社のCOVID-19ワクチン職域接種が始まりました。県内すべての主要な新聞社とテレビ局の取材陣に取り囲まれる中、接種の実施からインタビューまで、予定された1日のスケジュールを無事にやり終えた時には、格別な安堵感がありました。世間の人々のワクチン接種への関心の高さを肌で感じた初日となりました。

社内の産業保健スタッフのみで、通常業務にプラスされるワクチン接種を実施するか否か、自分の身近なところで話題が上がってから実施に至るまで、わずか三週間ほどの準備期間しかありませんでした。まさに、スタッフ全員が一丸となって各々の力を出し合い、ゼロからその仕組みを作り上げて完成させたワクチン職域接種でした。この準備期間に、既にワクチンの集団接種を進めていた地域自治体や医師会の皆様にご協力やご助言をいただいたことに深く感謝申し上げます。そして、自社の施設を利用して勤務時間内で実施するという限られた時間と場所の制約を受ける中、感染予防対策を施しながら、安全に接種することが最大のミッションとなりました。

このミッションをクリアーするために主な課題は2つありました。1つ目は、感染予防対策を施しつつ、重度の副反応が起こった時に必要な医療を提供すること

などを考慮して、時間当たりの被接種者の人数を平準化すること。2つ目は、通常業務と並行してワクチン接種を行うにあたり、産業保健スタッフだけでは人員不足のため、それを補う必要があったことでした。

これらの課題は、社内の人事部門主導で接種を受ける社員の勤務の調整を含めて接種日時をコントロールすること、他部署に応援社員を要請して、医療行為以外の面でサポートを受けることで解決を図りました。その結果、日々時間当たりの被接種者数の平準化が可能となり、国から供給されたワクチンも余すことなく正確に使用することや社員の接種状況を効率的に把握することができて、日常の業務でも必要不可欠な社内の関係各部署との連携の重要性を改めて強く認識する機会となりました。ワクチン接種証明書発行業務の応援に来てくれたのは、普段は駅に勤務している社員でした。まるで駅窓口で切符を発券するような見事な手捌きで接種証明書を発行する姿は圧巻でした。

弊社において、職域接種の実施は、鉄道を利用するお客様の安心感につながると考えています。さらに、地域接種では後回しとされた若い世代も含めて接種率を向上させる効果もあることから、職域接種が企業におけるCSRの一端を担っていることを実感しました。

そしてもう一つ、職域接種が始まってから、一般の方に産業保健の仕事について説明をしていると、第一声で「産業医」と一緒に働いているのですね」と言われることが多くなったことに驚いています。職域接種には、「産業医」という言葉やその仕事を世に広く知らしめた効果もあったのではないのでしょうか。



## 教室紹介

## 浜松医科大学医学部看護学科 公衆衛生看護学領域の紹介

浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座 公衆衛生看護学領域 教授 渡井 いずみ

本学の看護学科には基礎看護学、臨床看護学、地域看護学の 3 講座があり、地域看護学講座は公衆衛生看護学と在宅看護学の 2 領域で構成されています。看護学科設立当初の地域看護学講座には行政保健および産業保健をそれぞれ専門とする教授が着任され、産業都市「浜松」を支える保健人材の育成や研究を重視したと聞いています。保助看法指定規則の改正等に伴い、公衆衛生看護学領域が行政・産業両方の保健師教育を担当することとなり、現在は教員 4 名、教務補佐 1 名、事務補佐 1 名、大学院生 4 名が在籍しています。

全国的に保健師の養成は学部選抜制あるいは大学院教育にシフトする傾向にありますが、本学は看護学科に在籍する 1 学年 60~70 名全員が保健師国家試験の受験資格を得られる教育体制を継続しています。保健師教育である健康支援技術として行動科学理論を、地域診断の科目に組織アセスメント（職場診断）、健康教育の演習では労働者を対象としたテーマも設定するなど、複数の科目に産業保健を意識的に取り入れています。また産業看護活動（2 単位）では、健康経営やメンタルヘルス対策など最新の情報や、特定保健指導の演習、現役の産業保健師からの講義等を取り入れ、産業保健師の魅力が伝わるように工夫しています。保健師実習 5 週間のうち、1 週間は企業で行います。現在、静

岡県内 9 社に実習協力を頂き、職場巡視や各種保健事業の見学、産業医・産業保健師・安全衛生担当者・人事労務担当者の方々からの説明など多様な産業保健活動の実際を学んでいます。これらの成果として、前任の巽あさみ教授の時代から、毎年卒業生のうち何名かは産業保健師として就職しています。また、看護師として就職する学生も、病院内の安全衛生体制や医療職における健康課題、退院後の職場復帰、医療機関と職場との連携に目を向けることが出来ていると感じます。実習に協力頂いている企業さまとは、本学会での活動がきっかけで知り合ったところも多く、この場を借りて御礼申し上げます。

現在、教員や大学院生が取り組んでいる産業保健分野の研究としては、地域・職場連携、出産後の就労女性の職場復帰支援、小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の推進、睡眠と社会的ジェットラグ、新型コロナウイルス流行下に伴うストレス等があります。本学の大学院では社会人院生に配慮して、昼夜開講制、オンラインでの授業やゼミを導入しています。キャリアアップを目指す人、研究手法を学びたい人、行政保健や他社の産業保健職、研究者とも交流したい方などは、ぜひ大学院進学も視野に入れてみてください。一緒に学びましょう。



## リレーエッセイ

## COVID-19 の流行によって変化した大学、大学院教育

名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻 看護科学 教授 西谷直子



名古屋大学は、世界が  
かつてないスピードで激  
変していく中で、未来に  
向けて教育研究機能を抜  
本的に強化し、東海地域  
の持続的発展に一層貢献  
するため、岐阜大学と  
2020 年 4 月 1 日、一法  
人複数大学による東海国

立大学機構を設立し、国立大学法人東海国立大学機構  
名古屋大学となりました。それに伴って組織改革やカリ  
キュラム改正が実施されています。留学生も多く国際  
的交流活動が盛んに行われています。しかし 2019  
年後半からの世界の変化をだれが予想したことでしょう。  
COVID-19 により国際間の行事や移動の制限、国内  
ですら移動の制限や自粛が強いられました。

## COVID-19 による影響

海外で学んでいた留学生が緊急帰国できるような  
対応が必要になりました。2020 年の卒業式や入学式  
は中止となるなど、多くのイベントの中止や延期が  
相次ぎました。通常、大学は通信制でない限り、学生が  
キャンパスに来て学ぶことを前提とした学校であり、  
このような緊急事態にも学生に寄り添った対応を講  
じ、学生が安心し、充分納得した形で学修できる環境を  
確保することが求められます。しかし、授業は急遽オン  
ラインに変更を余儀なくされ、どの大学も共通してそ  
の対応に追われたことと思いますが、環境整備、機器の  
導入、学生への配慮など多くの時間を費やされました。  
未知のウイルスの蔓延に一時は、学生でさえ入構制限  
があり、新入生は同級生の顔を見ることもできず、友達  
づくりができないままでした。オンラインの授業が続  
く中、徐々に学生の体調不良や訴えが増え始め、教員に  
も「オンライン疲れ」が出現してきました。社会全体の  
感染者数が落ち着いた頃、そろそろ通常に戻るかと思  
うとまた緊急事態宣言が出され、オンラインでの授  
業や会議が増えてしまうことが繰り返されてしま  
した。キャンパスだけでなく人々の生活そのものが大  
きく変化し、「新しい生活様式」が新しくなりつつあ  
ります。

## 厳しい現実への対応

COVID-19 から約 2 年、大学、大学院教育が ICT を  
活用し変化してきましたが、まだまだ多くの課題があ  
ります。看護の知識や技術を学生にどの様に伝えてい  
くか、対象者と接することなくコミュニケーション  
能力をどう高めていけばいいのかなど、人と人がかわ  
れられない状況下での実習は顕著に影響を受けました。  
オンライン実習になることも多く、それは将来専門職  
としてのケアになかなか結びつかない、判断力や思考  
力の不足につながりやすく、現場指導者も「考えさせる  
指導」から「こう考えてみたらというアドバイス」に変  
えていく必要性が生じました。教員と現場指導者との  
打ち合わせはより時間をかけて行うよう工夫も必要で  
した。学生自身が充分な実習ができないことで、就職や  
仕事への不安を大きくしないよう配慮しました。先の  
見えない不安の中で、学会などを通じ教員同士が各  
大学間で情報交換や意見交換を行うことは、とても有意  
義に感じました。

## 課題解決に向けて

今後に向け特に、①教育する側は既成の考え方に  
とられず、状況に合わせた適応力が重要となること、  
②対面のかかわりとして、人とかかわる力、気持ちの  
理解、時と場所を共有することで同じ目標を目指す  
などの利点があり、ICT と上手に組み合わせる必要が  
あること、③学生の体調管理やプライバシー保護に  
配慮しながら、学びを深められる環境調整を実施す  
ること、が大切だと考えます。

今後はいつでもどこにでも行けるバーチャル体験が  
自由にできる日が近いかも！？

次は、ブラザー工業株式会社 保健師 日笠ちはる  
様にバトンをお渡しします。

日笠様、よろしくお願いたします。



## 会 員 の 声

## 新任理事のご挨拶



この度、日本産業衛生学会東海地方会理事を拝命致しましたトヨタ自動車の青山です。このようなご挨拶の機会を与えて頂き光栄に思います。私はトヨタ記念病院で臨床研修、腎・膠原病内科勤務を行い、その後、主に

事業所で産業医として勤務しております。業務当初は、産業医の仕事は何かと考えておりましたが、交代勤務と睡眠の関係、作業環境における深部体温と作業着・保護具の関係、熱中症と健診結果の関係、メンタルヘルス再休養低減に向けた調査、日本版 AAI (active aging index) の開発などに関わらせて頂く機会を通して、常に新しい取り組みが求められ、また成長が求められる仕事である事を実感しています。最近では、コロ

トヨタ自動車株式会社 産業医 青山 知 高

ナ対策、両立支援、化学物質の自律管理、AI を中心とした DX など、新しい分野について学びは尽きません。加えて、海外渡航者の健康管理に対する興味から、ISTM (International Society of Travel Medicine) の CTH (Certificate in Travel Health)、日本渡航医学会認定医療職をコロナ流行前から取得していたことから、今回のコロナ感染症、コロナワクチン接種に関するハードルを非常に低く捉えることができ、このようなことから様々な知見を活かすことができる「産業保健領域の幅広さ」に魅力を感じています。

今後は、労働安全衛生法等による法的な産業保健活動を基本としながらも、社会や技術の変遷に応じた社会貢献ができる産業保健を心がけて参りたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻の程何卒よろしく願いいたします。

## 新任理事のご挨拶

富士フィルムマニュファクチャリング株式会社 鈴鹿事業所 産業医 吉田 美 昌



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました吉田美昌と申します。このようなご挨拶の機会をいただき感謝申し上げます。

私は、大学卒業後、外科医として勤務しておりましたが、結婚・出産を機に勤め始めた健診機関で嘱託産業医としての業務に触れたところ、どんどん魅せられていき、専属産業医の世界に入りました。また、外科医時代からの先輩でもある現三重産業医会会長の酒井秀精先生がこの世界の面白味をご教示くださったことで、新しい世界の扉が最後の一押しで開いたことも、私が産業医の世界に飛び込んだ理由の一つです。それから約 20 年、現在は、八面玲瓏の鈴鹿山脈を仰ぎ見る三重県の工場

の専属産業医をしております。

の中長期的な持続可能性) が重要な経営課題であるとの意識が高まっている中で、我が国でも今年の 6 月にコーポレートガバナンス・コードが改正され、地球環境問題への配慮と並んで、従業員の健康・労働環境への配慮が盛り込まれたところです。

そのような中、手前味噌で甚だ恐縮ですが、三重県が健康経営の取り組みを推進するために実施している表彰制度の「三重とこわか健康経営大賞 2021」で「大賞」を受賞することができました。高齢化とともに人口減少がすすんでいる現在、産業衛生活動は、従業員の健康を考えるとという範疇を超えて、健康経営を実践した成果を社内外に発信し、社会全体の健康意識の向上に貢献することでもあります。微力ながら産業衛生学会の発展、ひいては社会の持続可能な発展に貢献できるように、今後も学会活動に精進してまいりますので、何卒ご指導のほどよろしく願い申し上げます。

## 低周波騒音に関する蝸牛角上の争い？

名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学 教授 加藤 昌志



2020 年 12 月に公表された公害苦情調査結果報告書（総務省）によりますと、典型 7 公害に関する苦情（46,555 件/年）のうち、「騒音」の占める割合は 33.2%で、第 1 位となっております。つまり、騒音は、我々にとって最も身近な公害であると言えます。風力発電やエコキュート等から発生する低周波騒音（100 Hz 以下の音）の健康障害は特に深刻で、先進 10 カ国以上の公的機関が低周波音と健康障害の因果関係を認めています。現状では、風力発電やエコキュートといった住宅内における低周波騒音の健康障害ばかりが注目されていますが、工場内では、住宅内のレベルを遥かに超える大音量の低周波騒音に曝露されることが報告されています（環境省）。近い将来、低周波騒音による健康障害は、産業衛生学においても重要な問題になると確信し

ております。

一方、日本では、未だに「低周波騒音による健康障害の有無」が議論されることも少なくありません。これは、ヒトにおける自覚症状だけに頼る健康影響評価では、低周波騒音により誘発される健康影響を、感度良く評価することが難しいことが一因であると考えております。我々は、低周波騒音の健康影響を他覚的に評価するヒトに対する研究と、動物実験を組み合わせ、より信頼性の高い科学的知見を提供するように心がけております。実際に、我々は、内耳の聴覚を司る「蝸牛」に対する低周波騒音の影響は極めて限定的ですが、平衡機能を司る「前庭」に対する影響は甚大であることを、動物実験で証明しております。低周波騒音の健康障害に関する論争は、今後も続くと思われませんが、本問題が、「蝸牛角上の争い」とならないように、今後も日本産業衛生学会の皆様へ、お力添えをいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

## 「with コロナ時代」の「with 従業員」保健師として

東芝テック株式会社 総務部総務企画室 保健師 高橋 一 矩



はじめまして。東芝テック株式会社静岡事業所で保健師をしております、高橋一矩と申します。私は看護師として臨床で 7 年間勤務した後、縁あって東芝グループの保健師として産業保健の世界に入りました。

弊社の創業の地は、伊豆の国市にある大仁。創業と同時に手動計算機を開発・製品化し、事業拡大とともに三島市に工場を開設しました。

現在、大仁事業所と三島事業所は、静岡事業所として統合され、流通小売業・飲食業等で導入されている POS（販売時点情報）システムを中心とするリテールソリューション事業（大仁）と、主に海外で導入されている MFP（複合機）を中心とするワークプレイスソリューション事業（三島）の製品製造・開発・研究の中核を担う、重要拠点となっています。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により、皆様の職場でも感染症対策に軸足を置いて活動されている事と思います。弊社でも、①作業環境管理（職場に持ち込ませない）、②作業管理（感染経路の遮断）、③健康管理（早期発見、重症化予防）という優先順位をつけて対策を行ってきました。従来からの「従業員と集まり、ともに創り上げる産業保健活動の展開」が難しくなっていますが、事業所全体で約 2000 人の従業員が健康で安全に仕事ができるよう、産業医 3 名（うち非常勤 2 名）と保健師 3 名の体制で、関係部門と協力してサポートをしています。

社会が大きく変化している時こそ、事業所や従業員の小さな変化に目を向け、柔軟に対応できるよう心がけていきたいと思っています。至らぬ点もありますが、今後とも皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



## 入会のご挨拶

三菱電機株式会社 静岡製作所 産業医 加賀 まこと



この度日本産業衛生学会東海地方会に入会させていただきました三菱電機株式会社静岡製作所 産業医の加賀まことと申します。消化器内科の臨床医として勤務後、2016 年より企業の専属産業医として勤務し、2021 年 1 月より地元の静岡市に戻り、三菱電機に勤務しております。臨床医として勤務していた際には、目の前のがんを何とか治療しようと精いっぱいでしたが、大きながんに対してはどうしても負け戦になることが多く、辛い思いをしておりました。同時に「もっと早く検査をしていればよかった。」などと悔やむ患者さんもありました。人生においてそのような後悔は本当に悔しいと思います。働く世代の人々は忙しいとどうしても自身の健康管理を後回しにしてしまいがちですが、病変

には早期に対応することがより重要で、産業医としてそのようなリスクを従業員に情報提供し、より早い時期に受診勧奨することを心掛けています。

私の勤務する三菱電機株式会社静岡製作所では、ルームエアコン「霧ヶ峰」や事務所・店舗用エアコンや、冷凍冷蔵庫の開発・製造を行っています。産業医からみますと、ライン作業による深夜業、筋骨格性疾患、粉じん、有機溶剤、特定化学物質、騒音など考慮すべき物理的要因や有害物質は多岐にわたります。以前より勤務されていた先輩の産業医や産業保健スタッフ、安全衛生スタッフのご助言をいただきつつ、巡視などで現場に足を運び作業状況を確認するようにしています。

また静岡県東部地区産業医研究会では、他会社の産業医の先生方からご教示いただくことも多く、いつも感謝しております。今後も精進してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

## 事務局から

### 2021 年度総会決議より

1. 第 1 回総会を 10 月 30 日 (土) に Web (Zoom) で開催した。
2. 2020 年度事業報告が行われた。
3. 2020 年度決算報告が行われた。
4. 2020 年度会計監査報告が行われた。
5. 2021 年度事業計画が承認された。
6. 2021 年度収支予算が承認された。

### 地方会理事会

#### 2021 年度第 2 回理事会

日時：2021 年 10 月 16 日 (土) 10:00~11:40  
Zoom による Web 会議

#### 【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
  - 1) 2021 年度総会について
  - 2) 広報委員会の設置について
  - 3) 2022 年度地方会学会について

- 4) 化学物質の自律管理について
- 5) 次回の理事会の日程について
- 6) その他

#### III. 報告事項

- 1) 第 31 回日本産業衛生学会全国協議会準備状況
- 2) 2021 年度地方会学会準備報告
- 3) 第 34 回産業保健スタッフのための研修会準備状況
- 4) 本部理事会報告
- 5) 地方会事務局報告
- 6) 地方会活動方針検討委員会
- 7) 学術研究推進委員会
- 8) 編集委員会
- 9) 研修会企画委員会
- 10) 表彰制度推薦委員会
- 11) 部会報告
- 12) 職場ストレス研究会報告
- 13) 各県の活動報告
- 14) その他報告事項
- 15) 関連学会研究会開催情報
- 16) その他 (コロナ関係等に関する情報交換)

## 会員状況

2021 年 6 月 1 日～8 月 31 日の推移  
(2021 年 8 月 31 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	6(2)	1	3	0	10(2)
転入会員	1	0	0	0	1
地方会内転入	0	1	-1	0	0
退会会員	-2	0	-1	-1	-4
転出会員	0	0	0	0	0
地方会内転出	0	0	0	0	0
増減	5	2	1	-1	7
本部正会員	528(6)	227(1)	106	44(1)	905(8)

※( )は学生会員を表す

## これからの行事予定

2021 年度 日本産業衛生学会 東海地方会

産業衛生技術部会 特別企画

日時：2022 年 1 月 22 日 (土) 13:25～15:45

会場：オンライン (Zoom 利用)

テーマ：労働衛生の将来の方向性を考える講演会

第 34 回産業保健スタッフのための研修会

日時：2022 年 2 月 5 日 (土) 13:30～16:00

会場：オンライン (Zoom 利用)

内容：職場のメンタルヘルスと法、新型コロナに関する労務問題 QA のエッセンス

第 29 回日本産業ストレス学会

日時：2022 年 3 月 25 日 (金) ～26 日 (土)

会場：ウインクあいち

テーマ：チームで進める産業ストレス対策

2022 年度 東海地方会産業医部会懇話会

日時：2022 年 4 月 9 日 (土)

14:00～16:50

場所：ウインクあいち

特別講演①：日本産業衛生学会

100 周年に向けた

取組と会員への期待

特別講演②：産業医部会の将来像と東海産業医部会  
に期待すること (仮)



第 95 回日本産業衛生学会

日時：2022 年 5 月 25 日 (水) ～28 日 (土)

会場：高知県立県民文化ホール他

(会場およびライブ配信)

テーマ：新しい時代の働き方と産業保健



## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年 7～8 月に夏季オリンピック/パラリンピックが東京で開催され、元気や勇気をもらった方々も多いと思います。開催に際して世論を含め色々なご意見がありましたが、個人的には「スポーツの力」と「安心安全」の重要性を改めて認識しました。「安心安全」を担う我々の活動の重要性を胸に、日々の業務に務めつつ、今年 2 月の北京冬季オリンピック/パラリンピックを楽しめる世の中になっていることを願っています。

聖隷健康診断センター 近藤 祥

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)

副編集委員長：西谷 直子 (名古屋大学)

編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)

榎原 毅 (名古屋市立大学)

河南 文子 (メタウォーター)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

近藤 祥 (聖隷健康診断センター)

榊原 洋子 (愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀 (中部大学)

山本 誠 (ヤマハ)

### 東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 7F  
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン  
事業共創部 コンベンション第二事業局内  
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

### 印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1  
有限会社トータルマップ  
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718